

# 新潟市秋葉区産業振興課指定管理者関越サービス評価会議 議事録

## ■日 時

平成30年10月4日（木）午前9時00分～午後12時15分

## ■場 所

秋葉区役所 6階ホール

## ■出席者

評価委員 委員 東村里恵子 （秋葉区自治協議会会長）  
委員 青木 貞義 （金津コミュニティ振興協議会副会長，金津自治会長）  
委員 平塚 幸雄 （中小企業診断士）  
委員 佐藤 雅義 （新潟古町まちづくり株式会社 事業部長）  
委員 村山 和恵 （新潟青陵大学短期大学部 助教）  
事務局 秋葉区産業振興課 （商工観光係）（いきいき里山室）

## ■傍聴者 なし

## ■対象施設

新潟市石油の里公園 里山ビジターセンター及び古代館

### 1. 開会

### 2. あいさつ

### 3. 事務局説明

経過・評価採点方法説明

評価方法・評価ポイント説明

### 4. 評価

#### （1）里山ビジターセンター及び古代館

<プレゼンテーション>（省略）

<質疑応答>（43：27）

#### （青木委員）

安全確保・災害時対応について、里山ビジターセンターは現在地元の金津自治会の避難場所に指定されている。年に1回地域の防災訓練をやっているし、区が実施する避難所開設運営講習もやっていたらいい。そこに職員の方がこられて、非常に熱心に加わっていただいているのはすばらしいことだと思うし、危機管理マニュアルもすばらしい。災害

は防げないが、被害は減らすことができる。この方針は今後も続けて欲しい。

今年6月に金津の石油遺産が史跡指定答申がされ、早ければ10月には官報に載って指定されると思うが、全国でも石油産業の史跡は金津のみ。石油に関する自主事業を検討する予定はあるか。

8月の「山の日」などで秋葉里山ガイドの会と事業を実施しておられ、今はガイドの方が土日だけ出ているようだが、今後の有効な活用方法の提案はあるか。

また、差支えなければ、これまでに施設が受けた苦情や要望、それに対する措置があれば教えて欲しい。

#### **(関越サービス)**

新津金津鉦場跡が史跡の認定を受ければ、石油産業では国内第一となり、全国初の石油産業の遺跡となるので、私たちもとても楽しみにしている。周辺の関係機関と連携をとりながら、地域を盛り上げる自主事業等、連携させていただきたい。

秋葉里山ガイドの会とは、今年初めて実施した「山の日」のイベントは、参加者から好評であった。10月21日にも、山頂でコーヒーを楽しむトレッキングを里山ガイドの協力を得て開催する。

これまでの利用者アンケートには、施設や職員に対する苦情はない。ただ、古代館の遊具の充実を要望する声があるので、こちらは市や関係施設と毎月の定例ミーティングなどで相談していきたい。

#### **(平塚委員)**

提案された事業計画の中で、2022年度の自主事業費が0円、広告費も0円とある。しかし、自主事業を削ってしまうと提案理念から離れてしまうのではないか。どの程度縮小するのか説明いただきたい。SNS発信すらしなくなるということか。経費のかからないものは継続するのか。ものによってはお客さんから参加費をいただくなど方法はあると思う。その部分が提出資料からは見えてこないで説明いただきたい。

#### **(関越サービス)**

安全確保の観点から施設維持管理費を削ることはできず、検討の結果、今後の人件費増を見込むとどうしても自主事業・広告費を0とせざるを得ないと考えているが、SNSでの発信や館内でのチラシ配布など、できることは最大限努力・継続していく。また、自主事業の中でも参加費をいただいて実施することを検討したい。

#### **(佐藤委員)**

コスプレガタケットなど様々な感性の団体と関わっていることは評価できる。会社の仕組みや理念も良いが、最終的には施設を運用する「人」が問題になってくる。人件費は費用とみると上げられないし、統率するマネージャーの巡回も仕組みとして出来上がっていると思うが、チーフの扱いについて教えてほしい。(人件費的には差がないように見える。)

現地の「人」をどう定着させ、その人がコネクションを広げていくのか、その知識が会社に蓄積されると良いと考えるがいかがか。

#### **(関越サービス)**

チーフ職員は、これまで「半日勤務のパート」だった職員を、常駐でないとうまくいか

ないこともあり、29年度から「フルタイム」で働くようになった。さらに、今年度から毎月1回社内で「魅力会議」を開催し、里山ビジターセンターと里山のどんな魅力を発信できるかや、運営目標などについてを現場と本社のスタッフが、意見を出し合うとともに相互の意思疎通を図っている。

**(村山委員)**

これまで通りの自主事業の継続を望む。ターゲット層を幅広く設定しているようだが、情報発信はどのような方法で、狙っている層に対し工夫している部分、響いていると捉えているか。

**(関越サービス)**

登山者への情報発信基地としてはもちろんだが、登山者のみならず、子育て世代などと間口を広げて、石油の里・里山ビジターセンターを知ってもらうことを狙いとしている。コスプレイベントや写真展の開催もそうした考え方による。高齢者や若者向けのそれぞれのちらしで工夫をし、色んな角度から攻めている。

**(村山委員)**

具体的にちらし類はどこで入手できるのか。

**(関越サービス)**

自社の管理施設および周辺施設に置かせてもらっている。またwebでも発信している。

**(村山委員)**

大事なものは、自主事業をきっかけとしてイベントがない時でも「利用したい」と思う人が増える事であるので、それを意識して地道な積み重ねもして自主事業を継続して欲しい。

**(東村委員)**

施設の貸し館、地元との連携・対応はどうしているか、どうしたいか。また、里山の新しい魅力の提案をどう考えるか。

**(関越サービス)**

貸し館では、毎月予約者が増えているが、なかなか利用者増には直結していかない。新しいイベントで人を呼ぶことがまず大事と考える。

里山ビジターセンターだけが盛り上がるのではなく、地元とつながりながら、地域一帯で盛り上げることが大切と考え、例えば、地域のまつりに一緒に参加することで連携している。

新しい魅力としては、「コスプレイベント」や「山頂コーヒー」

のように、とにかく知ってもらうきっかけになるイベントを開催し、足を運んでもらいたい。魅力会議を重ねながら新しい里山の魅力を発信していきたい。

**<採点> (以下非公開)**

**<意見交換・協議>**

**<採点結果報告>**